

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 19 日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370281

研究課題名(和文) 19世紀初頭イギリスのジャーナリズムに対するチャップブックの影響

研究課題名(英文) The Influence of Chapbooks upon the Journalism in the Early Nineteenth Century England

研究代表者

江口 誠 (EGUCHI, MAKOTO)

佐賀大学・全学教育機構・准教授

研究者番号：50332060

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ウィリアム・ホーンが手掛けたパンフレットと当時のチャップブックとの共通点を探り、彼が自身の作品の中で具体的にどのような特徴を利用したのかという点を明らかにするものである。主な研究成果は、以下の2点にまとめられる：(1) 学術論文「大衆文化とジャーナリズム チャップブックの成り立ちとその意義」の発表、(2) 共著「詩と詩論の相互作用とその変容「秋に寄せて」におけるキーツの新たな試み」の出版。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was, searching for some common features between William Hone's pamphlets and the contemporary chapbooks, to reveal a certain technique he applied in his writings. The main results of the said study are as follows: the publications of "Mass Culture and Journalism" and "The Interaction between Poems and Poetics."

研究分野：イギリス文化研究

キーワード：チャップブック William Hone イギリス文化研究 英米文学

1. 研究開始当初の背景

ロマン主義(あるいはロマン派詩人)の文化的側面に関しては、国内外を問わず1970年代から歴史主義という視点で様々な研究がなされてきた。批評家 Stephen Greenblatt が活躍し始めた1980年代以降は、ロマン派研究も少なからず新歴史主義の影響を受けてきており、時代の文化を文学作品の単なる時代背景として捉えるのではなく、文化の一形態として捉える研究姿勢が主流になっている。一例を挙げれば、1998年には批評家 James Chandler が数多くの作家や作品を取り上げ、ロマン派と歴史の関係を整理した。¹⁾2000年には、批評家 Richard Cronin がロマン派の詩の政治性に言及しつつ、ロマン派の時代を3つの時期に分け、通時的な観点からそれぞれの時期に表象される優勢な言説を見出した。²⁾

そこで本研究では、十九世紀初頭イギリスで活躍した風刺作家 William Hone の著作を取り上げ、文化研究の手法により、散文や韻文の区別なく十九世紀初頭イギリスの様々な文献を精読した上で、大局的な観点からは、「その時代のイデオロギー的な闘争を提示する」³⁾ことを目指すものである。

また、申請者はこれまで、ロマン派詩人と称される John Keats や P. B. Shelley の詩はもとより、ピータールー虐殺事件 (Peterloo Massacre) 発生の発端となった集会に参加した職工詩人の Samuel Bamford、さらには Leigh Hunt や William Cobbett らにより発行された当時の反体制的な雑誌を中心としたジャーナリズム研究に携わってきた。なお、本研究は、2012年3月に上梓した拙論「ピータールー虐殺事件と William Hone *The Political House that Jack Built* 創作の背景」の発展的な取り組みであることを強調したい。さらには、William Hone が *Political House* という称されるパンフレットを出版する直接の原因となったピータールー虐殺事件に関しても、申請者は上述の拙論以外にも2つの関連論文を既に発表している事も強調しておきたい。

注)

1) James Chandler. *England in 1819: The Politics of Literary Culture and the Case of Romantic Historicism*. Chicago: U of Chicago P, 1998.

2) Richard Cronin. *The politics of Romantic Poetry*. London: Macmillan, 2000.

3) Stephen Greenblatt. "Culture." *Critical Terms for Literary Study*. Chicago: U of Chicago P, 1990.

2. 研究の目的

1819年8月にイギリスのマンチェスター

で発生したピータールー虐殺事件に対する批判の一環として発行された風刺作家 William Hone の *The Political House that Jack Built* は、後に Charles Dickens の一連の作品で人気を博すことになる風刺画家 George Cruikshank の挿絵によって特徴付けられている。このパンフレットは発売直後に約10万部を売り上げ、すぐに50版以上を重ねたほどの人気ぶりであった。その理由としてまず挙げられるのは、上述の Cruikshank の絶妙とも言える挿絵である。しかしながら、それに加えて、*Political House* が、19世紀初頭イギリスで徐々にマーケットを広げつつあった子供向けの童謡の体裁をかなり意識した作風に仕上げられていることもその理由の一つと考えられる。

そこで本研究では、William Hone が手掛けたパンフレットと当時のチャップブックとの共通点を探り、彼が具体的にどのような特徴を利用したのかという点を明らかにしたい。また、資料の検証範囲を同時代のその他のパンフレットや雑誌記事等に拡大することにより、とりわけ Hone に代表される反体制的な勢力が共通して用いたイメージや表象方法を解明したい。Hone の *Political House* が大成功を収めた後、イギリス社会にはそのパロディ版が数多く作成されて広まったことが知られている。そこで、この研究によって、民間伝承文化がイギリス社会内部に於ける「体制側」と「反体制側」の対立構造にどれほどの影響を与えていたのかを解明する糸口とした。

3. 研究の方法

(1)本研究は、William Hone 作 *The Political House that Jack Built* におけるチャップブックの影響を検証し、ジャーナリズムにおける民間伝承の影響を解明するという二つの柱で成り立っている。従って、初年度は19世紀初頭イギリスで流通していたと思われる多種多様な子供向けのチャップブックを収集することに専念する。次年度以降は、引き続き資料収集を継続するとともに、チャップブックに収録されている歌やバラッド等の整理を行い、問題となる Hone のパンフレットとの類似点をまとめる作業を行う。その後、検証の範囲を当時の政治パンフレット全体にまで広げ、チャップブックの影響をまとめる作業を行う。

(2)平成25年度は、18世紀から19世紀初頭にかけてイギリスで流通していたと考えられる子供向けのチャップブックの資料収集を行う。これに関しては、特に18世紀後半から子供向けの書籍が印刷産業の重要な一部として発達したこともあり、多種多様な書籍が出回っていたと考えられる。また、1730

年代の William Dickey のチャップブックや、特に 1740 年代以降に急速に人気を博した John Newbery の保育書籍(nursery books)がその最たるものであったことが知られている。

従って、当該年度には、Newbery 関連のチャップブックを中心とした資料を集めることになる。しかしながら、復刻版が存在しない、もしくは購入が難しい高額な資料等、日本においてほぼ入手が不可能であると判断されるものについては、チャップブックのコレクションを有しているオックスフォード大学の Bodleian Library (John Johnson Collection)、あるいはロンドンの British Library 等に直接赴いて資料の閲覧を行う必要がある。もちろん、18 世紀から 19 世紀初頭にかけて発行されたチャップブックは数多くあるため、焦点を絞る必要が生じる。そこで、上述の John Newbery が携わったもの、例えば Mother Goose's Melody(1791)、A Little Pretty Pocket-Book (1744)、The History of Little Goody Two-Shoes (1765)、The Entertaining History of Tommy Gingerbread a Little Boy who Lived Upon Learning 等の復刻版をまずは入手して、その内容を詳細に検討することから始める

それと同時に、William Hone の作品に大きな影響を与えたとされている Newbery 自身による政治パロディ本や Thomas Spence のパロディ本等についても可能な限り収集し、その後の一連の政治パンフレットの出版に繋がる大きな流れを把握することに務めたい。すなわち、平成 25 年度は、以後三年間の研究の土台を作ることに専念する

この時点でまとめることが出来た研究成果については、国内学会での口頭発表を行う予定である。さらに、可能であれば査読付の論文として年度内に投稿出来ればと考えている。それによって、他の数多くの専門家の意見を聞く機会が得られ、次年度以降の研究の遂行をより確かなものにする事が出来ると考えるからである。

(3)平成 26 年度は、前年度から進めている研究手法、つまり、18 世紀から 19 世紀初頭に出版されたチャップブック関連の書籍の収集に引き続き専念するとともに、それらに収録されている歌、子供向けの文学、バラッド、宗教冊子など多種多様な形態の作品を整理し、まずは William Hone のパンフレット *The Political House that Jack Built* が具体的にどの作品のどの箇所の影響を最も強く受けているのかという点について調査を行う。また、チャップブックの政治利用という点については、Marcus Wood の著書も参考にしつつ、*Political House* に至るまでの流れを把握することをその目標とする。¹⁾

その後は、William Hone 以外の政治パンフレットを対象を広げ、児童書籍との関連性を探る。しかしながら、19 世紀初頭に発行さ

れたパンフレットも数多くあるため、まずは Hone に対抗して出版されたパロディ版に焦点を絞り、共通するイメージや表象方法の有無を調査する。さらには、イギリス文化という大局的な観点から、当時の体制(政府側)あるいは反体制(一般市民側)という二項対立の構図の中で、18 世紀以降に子供たちの間で人気を博した伝統的なチャップブックが果たした役割という点についても、その解明を試みたい。平成 26 年度以降にまとめることが出来た研究成果についても、日本の学会で研究発表する所存である。

最後に、資料収集方法自体にも工夫を凝らし、三年間という限られた研究期間に於いて、効率的な研究ができるように心掛けたい。日本国内で入手可能な資料については全て出来る限り国内で収集するべく、インターネットを大いに活用する所存である。具体的には、現在主流となりつつある、e-book や e-journal など、PDF ファイルなどの形式によって、オンラインで提供されている資料については可能な限りそれらを活用し、必要があればイギリス在住の研究者に資料収集を依頼する。それでも入手が不可能な資料についてのみ、申請者がイギリスにて収集を行うこととし、経費を節約しつつ、文献の精読など、最も重要な作業に時間を費やすことができるように務める。

注)

1) Marcus Wood. *Radical Satire and Print Culture: 1790-1822*. Oxford UP, 1994.

4. 研究成果

(1)平成 25 年度は、主に 18 世紀から 19 世紀初頭にかけてイギリスで流通していたと考えられる子供向けのチャップブックの資料収集を行った。Newbery 関連のチャップブックを中心とした資料を集めることに専念したが、日本においてほぼ入手可能であると判断されるものについては、ロンドンの British Library に赴き、資料の閲覧を行った。

さらに、この時点でまとめることが出来た研究成果については、論文として投稿することができた。本論文は、ジャンルとしての確立自体が不明瞭なチャップブックの成立及び分類について概観及び整理を行い、18 世紀末から 19 世紀初頭イギリスにおいて人気を博した理由を探るというものである。また、チャップブックの形式を最大限に利用したと考えられるウィリアム・ホーン(William Hone)及びジョージ・クルックシャンク(George Cruikshank)作の『ジャックの建てた家』(*The Political House that Jack Built*, 1819)創作の意義について考察したものである。チャップブックの最大の読者層であった労働者階級の読書が、単なる娯楽としての目的から社会変革のために必要な知識や情報

を入手するための手段へと変化していった事に伴い、時事性を極力排除しようとしてチャップブックのメリットが、時代の変化によって逆にデメリットとして作用するようになった事が判明した。その点に於いて、時事性と政治性の双方の要素を巧みに取り込んで融合させた『ジャックの建てた家』は、「新たなチャップブック」としての成功例の一例だと言えるのではないだろうか。

(2)平成 26 年度は、William Hone 以外の政治パンフレットを対象を広げ、児童書籍との関連性を探ることを大きな目標とした。しかしながら、19 世紀初頭に発行されたパンフレットも数多くあるため、まずは Hone に対抗して出版されたパロディ版に焦点を絞り、共通するイメージや表象方法に有無を調査することに専念した。

さらには、イギリス文化という大局的な観点から、当時の体制（政府側）あるいは反体制（一般市民側）という二項対立の構図の中で、18 世紀以降に子供たちの間で人気を博した伝統的なチャップブックが果たした役割という点についても、その解明を試みることにした。

具体的な資料収集については、まず昨年度に引き続きイギリスの British Library に赴き、関係資料の閲覧を行った。そこでは、18 世紀末から 18 世紀初頭にイギリスで出版されたチャップブック関連の書籍、例えば Hannah More の *Village Politics*、1795 年に出版された *Cheap Repository Tracts*、1817 年に出版された *Vagabondiana* などを閲覧することが出来た。それに加えて、*Nursery Rhymes* の辞書やチャップブックに関する研究書を購入した。

しかしながら、その具体的な研究成果について、出版スケジュールの関係から、平成 26 年度内の業績としてはこの報告書に記載することが出来なかった。

(3)平成 27 年度は、平成 25 年度及び平成 26 年度に引き続き、18 世紀から 19 世紀に出版されたチャップブック関連の書籍の収集に引き続き専念するとともに、それらに収録されている歌、子供向けの文学、バラッド、宗教冊子など、多種多様な形態の作品を整理しながら、作家であり書籍業者でもある William Hone 作のパンフレット *The Political House that Jack Built* (1819) が具体的にどの作品のどの箇所の影響を最も強く受けているのかという点について調査を行うこととなった。具体的には、これも前年度と同じくイギリス・ロンドンの British Library に赴いて、計 20 余点の資料収集を行うことが出来た。しかしながら、3 年間という限られた時間内で当初計画していた通りの成果は得られなかった。それはチャップブックが予想以上に多種多様かつ広範囲に存在していたからである。また、そのジャーナ

リズムへの影響についても限定的な視点において確認することは出来たものの、ジャーナリズム全体に敷衍して説明することは出来なかった。従って、これらの点については、引き続き今後の研究課題とする予定である。

具体的な研究成果については、スケジュールの問題から、残念ながら計画していた国内での研究発表については実現出来なかった。しかしながら、分担著の形式で自身の研究成果を一冊の書籍に含めることが出来た。これについては、『詩的言語の諸相 ロマン派を超えて』というタイトルで近日出版されることが確定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

江口 誠、「大衆文化とジャーナリズム
チャップブックの成り立ちとその意義」
『愛知教育大学研究報告 人文・社会科学編』、査読無、第 63 輯、2014、
113-117
<http://repository.aichi-edu.ac.jp/dspace/bitstream/10424/5364/1/kenjin63113117.pdf>

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 1 件)

江口 誠 他、「詩と詩論の相互作用とその変容「秋に寄せて」におけるキーツの新たな試み」
『詩的言語の諸相 ロマン派を超えて』、2016、400(29-48)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)
なし

取得状況(計 0 件)
なし

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

江口 誠 (EGUCHI, Makoto)
佐賀大学・全学教育機構・准教授
研究者番号： 50332060

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし